

令和6年度 名古屋市立工芸高等学校 学校評価について

各分掌重点目標・達成状況・課題など

総務部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
I C Tの積極的な活用により、デジタル化を進め、円滑な学校運営につながるようD X化を推進していく。	MicrosoftTeams やきずなネットなどを活用し、様々な業務で効率化を進めていく。またデジタルデータの共有を進め、業務の負担軽減を図る。	A	生徒連絡や教員間の連絡など様々な場面でT e a m sを活用することにより業務の効率化が進んだ。また、保護者への連絡に今まで以上にきずなネットを活用することにより、印刷業務の軽減や紙の節約などに貢献することができた。	今後もデジタル化を押し進め、I C Tの活用により更なる業務の効率化や円滑な学校運営を進めていく。また業務の効率化を進めることにより、紙資源やエネルギーの節約などの環境負荷の軽減につなげていく。
安定した I C T 環境と運営体制を維持し、今後の機器更新に向け、校内のインフラ設備の準備を進めていく。	機器更新に向けて、サーバのデータや周辺機器の整理をする。また校務用P Cの更新を見据え、次年度のネットワーク移行に向けて準備を進める。	A	次年度の機器の更新に向けて、サーバのデータの取り扱いや周辺機器の整理など現校内ネットワークからの移行準備について進めることができた。 ネットワークインフラについて問題なく運用できた。また校内ネットワークや生徒用タブレットのトラブル対応などI C T支援員と協力し、しっかりと対応できた。	次年度の校務用P Cの更新に向けて、準備を進めていく。生徒用タブレットのメンテナンスやサポートについて、教員の負担軽減につながる体制を検討していく。

教務部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
①新学習指導要領に基づいた観点別評価について、円滑な運用・協議・研究を進める。	今年度が新学習指導要領の完成年度である。観点別評価と生徒の学習状況が相互に関連するように目指す。	B	観点別評価になり、生徒に対しより具体的に学習状況の指導ができるようになった。	教科・学科内で観点別評価の研究の余地がまだある。生徒の学習状況改善を目指し、さらなる協議・研究を押し進めたい。
②自動採点システム（リアテンダント）の運用・研究を進める。	デジタル採点やデジタル返却のさらなる推進を目指す。	A	採点・返却共に問題なく運用できている。特に大きな問題点も出ていない。	運用に慣れるにつれ、慎重さに欠けることがないようにしていく必要性がある。

生徒指導部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
基本的生活習慣を確立させる。	・遅刻時の声かけによる様子の確認。 ・担任、学年会と情報共有をした上で、面談やゆとり登校を実施。 ・関係各所との情報共有。	B	・生徒面談や担任との情報交換をすることで、生徒の現状を把握できる場合もあり、基本的生活習慣の定着に向けたかかわりを持てる生徒もいた。 ・遅刻面談の担当教員を指導部員以外でも行ったことで、多方面からの指導を行うことができた。	遅刻面談のシステムを変更したことで、多方面からの指導を行うことができたが、遅刻に対して改善の意思が低い生徒もあり、また遅刻理由の内容が多様化してきていることから、継続して適切な支援を検討していく。
生徒が安心・安全に過ごすことができるよう努める。	・各担当中心に、担任や学年会と定期的に情報の共有を行う。 ・学校全体での情報共有をいじめ等対策委員会で行う。 ・講話等を実施。 ・自転車点検の実施。	A	・学年会の情報を生徒指導部内でも共有することで、指導に生かすことができた。また、いじめ等対策委員会でも共有を行ったことで、学校全体での情報共有を行う体制を継続することができた。 ・薬物乱用防止講話、交通安全教室を行った。 ・自転車点検を実施し、日ごろからの安全意識を高めさせることができた。	・学校全体で情報の共有を行える体制を継続していく。 ・講話の内容を検討していく。

生徒会部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
生徒会活動のタスクを細分化し、生徒の発達段階を考慮して業務を再構成し主体的に取り組ませる。	・各担当で業務のリストアップをして可視化する。 ・業務を再編し担当業務と担当人数の適正化を図る。 ・生徒の発達段階に応じて適切な課題を設定し自力で乗り越える経験を積ませる。	B	・業務のリストアップを行い、担当の再編を行った。 ・生徒が主体的に取り組み乗り越えられるサイズを見極め、主体的に取り組ませることができた。	担当ごとの業務の再編だけではなく、担当を超えた業務の再編が必要と考える。
生徒会活動の運営に対して生徒が反省・改善を行うような枠組みを整備し、当事者意識を育む。	行事が終わった後の反省と引継ぎを生徒が中心となって行う構造を各担当に設置する。	A	・執行部活動、文化祭など生徒の中での事後検証と引継ぎが行われた。	当事者意識を持った生徒の尽力により、自分たちが主体となって行事をよりよくしていく実績が生まれた。これをさらに波及させ、その数を増やしPDCAが回るようにする。

進路指導部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
本校におけるキャリア教育の確立と、その効果的な手立てを研究し実践する。	3年間を通した進路指導計画方針を作成し、流れや目的を確認しながら、各行事の見直しを図る。	B	キャリア教育に関わる進路行事が、3年間を通してどのように積み重なっていくか検討し、見直すことができた。	生徒がそれぞれの課題に向き合い、進路選択へ意識を高めるきっかけとなるような仕掛けを考えたい。
生徒が自らの能力・適性や個々の成果に合った進路選択ができるようにサポートする。	生徒が自身の適性や希望などを見つめ直す機会を提供し、個々の進路選択に合わせたサポートをする。	A	生徒が探究活動や適性検査の結果などを踏まえ、自らの進路を選択できるよう、担任や学科の協力を得てサポートすることができた。外部ツールの活用が定着してきた。	進路選択に向けて、わかりやすい資料を提供・提示しながら、細やかなサポートをしていく。必要に応じて企業や大学、専門学校などの外部と連携を図る。

保健部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
委員会の生徒が中心となって、美化や衛生、保健に関する意識を全校生徒で高め、健康的な学校生活が送れるよう指導・助言する。	心身の健康や防災、環境美化を考える取り組みを生徒と共に企画し、委員会活動を通して、生徒自ら保健や美化に関する活動を行う意識づけを行う。	A	保健委員会の活動として、保健だよりの発行、自己を大切にする取り組みとして保健委員とSCによる座談会やアンケートの実施、防災意識を高める活動として災害時を想定して調べ学習を行うなど、生徒主体で活動することができた。 美化委員会の活動としてポスターを制作しごみの持ち帰りの呼びかけを行った。	生徒自ら心身の健康に留意し、自己で健康管理を行うこと、環境を整えることができるよう、継続的に指導・助言する。
悩みを抱える生徒の情報を集め、サポート体制を整える。	日々の学校生活の様子、こころのSOSなどを通じて教育相談係と養護教諭を中心に、教員同士が密に連携を取り、見守りが必要な生徒の早期発見に努める。こころのSOSや日常生活でサポートが必要な生徒の様子をSCと共有する。	A	養護教諭、教育相談係を中心に情報収集を行うとともに、関係各所と情報を共有した。生徒を注意深く見守り、必要に応じてSCにつないだ。	今後も継続して、日頃の生活や様々な活動から生徒の変化に気づき、見守りが必要な生徒の早期発見に努める。教員同士やSCとの連携により、迅速な対応ができるようにする。

図書部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
図書館の設備充実	生涯を通じて読書に親しむ習慣を身に付けられるよう、図書の選定を行う。同時に、図書館の設備を充実させ、図書館利用の促進に努める。	A	昨年度に引き続き、積極的に図書の選定を行うとともに、図書の大幅な配置転換を行い、来館者がより快適に利用できる環境を整えることができた。	本の展示のための器具や、本を守るためのカーテンなど、設備の充実が求められる。また、各教科、学科との連携をとった選書なども行っていきたい。
生徒の主体的な委員会活動	利用者増加のための広報活動を、生徒の主体的な活動となるような働きかけをしていく。	B	図書委員会として、掲示板の利用や、広報活動にキャラクターを活用するなど、生徒の主体的な活動が見られた。	既存の行事における活動だけでなく、新しい行事を生徒主体で運営できるような働きかけをしていきたい。

工務部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
特色ある工業教育の実現	工芸高校らしい特色ある工業教育を通して、実践的な体験や資格取得など生徒の学びをサポートする。	B	資格取得や実習課題だけでなく、見学会やイベント参加でワークショップを実施するなど、より多くの実践的な学びの機会を設けられた。	今後も地域や社会とのつながりを密にし、学科の特色を生かした実践的、効果的な教育を持続できるように努める。
実践的な教育活動に向けた設備の充実	施設・設備ほか必要な整備を進め、より実践的、先進的な工業教育を持続的に実現できるよう施策していく。	A	DX ハイスクールや次年度PC室リース更新に向け、より実用的、実践的な機材の導入への準備を進めることができた。	引き続き、老朽化した設備の更新や新しい機材導入を要望していく。また新しい機材導入に伴う研修の実施や、効果的な活用方法等を検討する。

広報企画部

重点目標	具体的方法	達成度	達成状況	次年度への課題・改善
安定した受検生確保のため、様々なイベントを企画・発信する。	・部活動見学会を開催する。 ・SNSを活用した広報活動の実施。	B	・Instagram、Xを設置し、様々な取り組みを発信できた。 ・WEBサイトについては関係部署と調整中である。	・WEBサイトやSNSを通して、有益な情報を多く発信する。（内容は精査する） ・卒業生の活躍が広報できるように検討する。
関係部署との連携を図り、安定した受検生の確保のための情報収集・分析を行い、活用方法を検討する。	・中学校訪問の企画・立案・まとめ。 ・進路説明会、上級学校説明会の対応。 ・入学案内、学校パンフレットなどの製作。	A	・多くの中学校での進路説明会を実施することができた。	・広報活動の対象を整理し、対象にあった発信方法を検討する。

学校生活アンケート(全校) 令和元年度から令和6年度の比較

教務部資料

